

一般質問

市民クラブ

長崎みなとメディカルセンターの課題と解消策

問 E R型の救命救急センターを設置するための、救急専門医確保のめどは立っているのか。また、小児・周産期医療充実のための体制はどのようになっているのか。

答 E R型の救命救急センターについては、現在、設置に必要な人材の確保ができていないため整備に至っていないが、平成29年9月に1名の救急専門医を採用しており、今後、平成30年度までにはさらに1名の救急専門医を確保し、早急に整備できるよう努めたい。また、小児・周産期医療については、専門医確保のめどが立ち、平成30年4月からの採用に向け準備を進めている。これにより、32週未満の新生児についても受け入れ可能な体制を整え、小児・周産期医療の充実に取り組みたい。

E R型の救命救急センター…24時間体制で、軽症患者から重症患者まで全ての救急患者に対応する体制

BSL-4施設設置容認の根拠

問 住民による設置反対の陳情が行われ、反対の署名もふえているが、施設設置の前提である「住民の合意」はどのような方法で確かめたのか。

答 市民の中には賛否の声が併存しているものの、大学による説明が重ねられる中、地域連絡協議会等での議論の状況やシンポジウム等での意見、また、関係団体から早期整備を求める要望が提出されるなどの状況から、市民の理解が着実に広がっていると認識した。

また、安全性の確保と市民の理解にかかわる大切な要素である国の関与も明確に示されたことを受け、総合的に勘案する中で、施設設置に協力するという判断を行った。

今後、計画がより具体的に進む中で大学がしっかりとした説明をすることで市民の理解が進むものと考えており、引き続き、大学と国に対して、地元自治体として要請した事項の確実な履行を求めていくとともに、必要な支援をしていきたい。

伝統行事への支援のあり方

問 伝統行事の継承にはさまざまな地域の課題や資金不足といった問題点があるが、支援に対する市の考え方を伺いたい。

答 伝統行事への支援として、ペーロ

ンについては、長崎ペーロン選手権大会の共催費や上位チームの県外大会への派遣費などの補助を行っており、郷くんちや郷土芸能大会については、大会開催に係る経費や保存会などへの補助を行っている。

ペーロンをはじめとする長崎市のさまざまな伝統文化の継承は、地域活性化やコミュニケーションの醸成につながるもので、長崎ならではの伝統文化として保存・継承していく必要があると考えている。

今後も、関係団体や地域の方々の意見を踏まえながら継続的な支援を行うとともに、さらに多くの方に伝統行事の歴史や魅力を知ってもらうため、伝統行事が注目を浴びるよう、さまざまな方法でPRに努めたい。



▲見事な櫂さばきが、大勢の方を沸かせます

明政クラブ

市民からの「ナガサキ動画」の募集

問 「週刊あじさい」の背景で使われている映像を市民から募集すること、市民と市役所が一体となって長崎をPRできないか。

答 長崎市では、市政情報を広く市民へ発信するための広報テレビ番組として、「週刊あじさい」を放送している。この放送に興味を持つ市民が増加することは、市政への理解者がふえることにつながり、多くの映像が集まることで、市民ならではの長崎市の隠れた魅力の再発見や、県内観光客の誘致にもつながると考えている。そのため、まずは、長崎市のホームページ内の「長崎ネット放送局」で配信する作品の募集から取り組みたい。

また、市民の皆様の反応を踏まえた上で、将来的には、現在、年間2本制作している「週刊あじさい」の背景映像のうち1本に、市民の皆様から募集した映像を使用できないか検討を進めたい。



▲「週刊あじさい」のオープニング